

静止気象衛星業務等

(ひまわり8号：平成27年7月7日運用開始、ひまわり9号：平成29年3月10日待機運用開始)
 令和2年度予算案3,012百万円(令和元年度予算額3,087百万円)

国土交通省気象庁観測部
 気象衛星課
 03-3212-8341

事業概要・目的

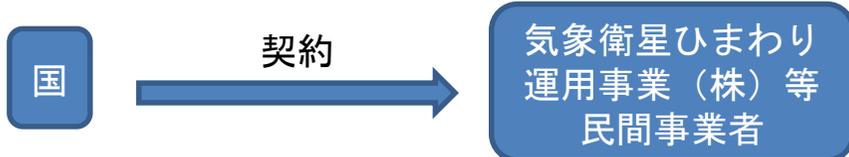
- 国民の安心・安全に寄与する防災情報の作成及び地球環境の監視に欠かせない静止気象衛星ひまわり8号及び9号の運用を継続します。
- ひまわり8号は平成27年7月7日に運用開始。ひまわり9号は平成29年3月10日に待機運用開始。2機あわせて令和11年度まで運用します。

(年度) H27 H28 H29 H30 R1 R2 R3 R4 R5 R6 R7 R8 R9 R10 R11

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|----|--|--|--|----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| ひまわり8号 | 観測 | | | | 待機 | | | | | | | | | | | |
| ひまわり9号 | 待機 | | | | 観測 | | | | | | | | | | | |

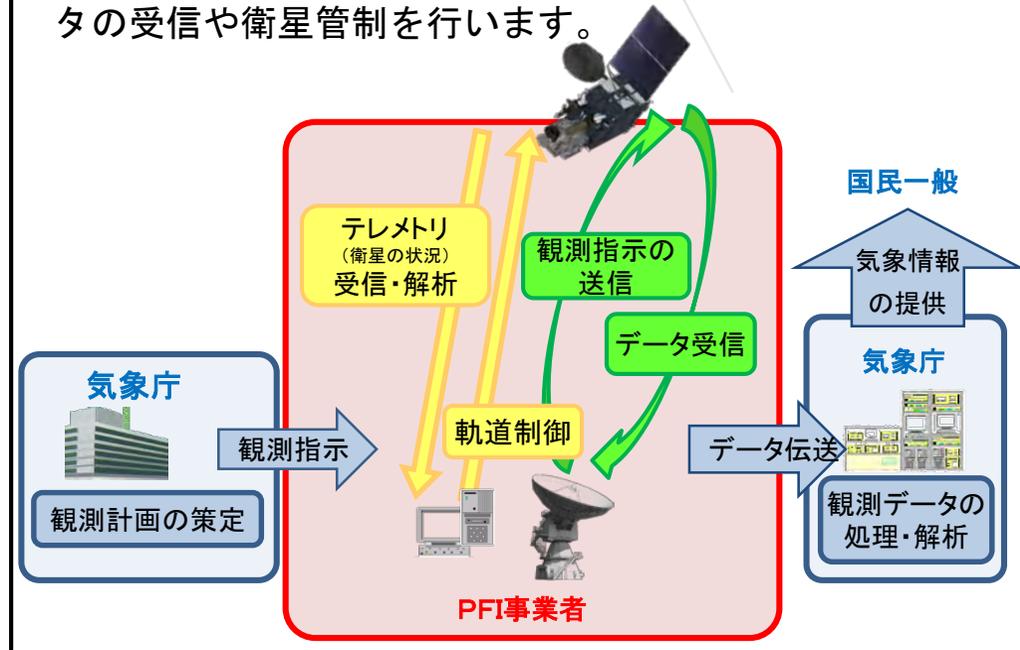
- 今後も、将来にわたって切れ目のない観測体制を維持するため、宇宙基本計画に基づき、令和5年度をめどに後継機の製造に着手する計画です。
- 令和5年度の後継機の整備に向けて、令和元年度の衛星本体に関する技術調査に続き、令和2年度は運用体制・調達方法に関する調査を実施する計画です。

資金の流れ



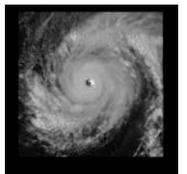
事業イメージ・具体例

- ひまわり8号・9号の運用はPFI事業者が担い、観測データの受信や衛星管制を行います。



期待される効果

- 台風の進路予測や注意報・警報の発表などを通じて、自然災害の防止・軽減に寄与するとともに、日々の天気予報など気象庁が広く国民に提供する各種情報の基礎データとして利用されます。
- 海面の温度、海水の分布、黄砂などの大気中の微粒子等を観測し、地球環境の監視や必要な対策に貢献します。



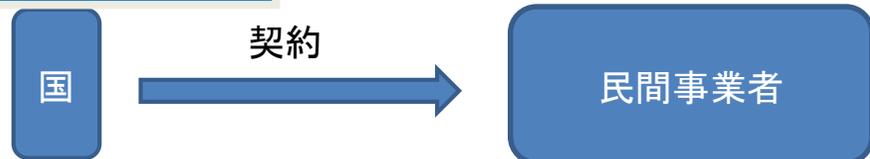
気象ビッグデータ利活用環境の構築を通じた 気象衛星「ひまわり」データの利活用促進 令和2年度予算案5百万円（令和元年度予算額11百万円の内数）

国土交通省気象庁総務部
情報利用推進課
03-3212-8341

事業概要・目的

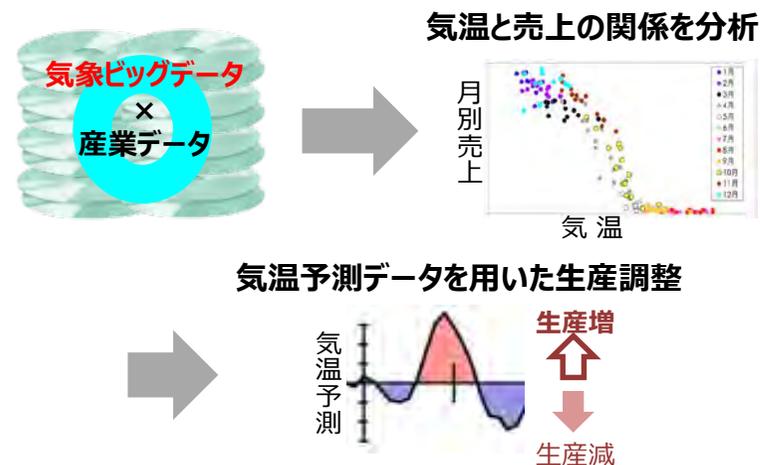
- AIやIoT（Internet of Things）、ビッグデータ等の新たな技術を活用し、様々な社会的課題を解決することが期待されています。気象現象はあらゆる社会・経済活動に影響を及ぼすため、ビッグデータである気象データを意思決定に用いる企業をさらに増やすことが喫緊の課題となっています。
- 気象衛星「ひまわり」のデータについては、従来より気象庁ホームページ等で公開し、利活用を促進しています。
- 様々な分野での気象データ利活用を促進するため、令和2年度には、産業分野のデータと組み合わせて分析するためのデータの利活用環境を構築し、気象衛星「ひまわり」データを含む気象過去データを提供します。

資金の流れ



事業イメージ

- 気象データが年々増加するなか、本事業を通じて得られた産業界のニーズを踏まえ、データ提供のあり方を検討します。
- 産学官連携の気象ビジネス推進コンソーシアムと連携して気象過去データの高度利用を促進します。



期待される効果

- 気象衛星「ひまわり」を含めた気象データについて、産業界で利活用いただくことを通じて、様々な産業分野における生産性向上が期待されます。
- 産業界における気象データを活用した生産性の高い新たなビジネスの創出に貢献します。

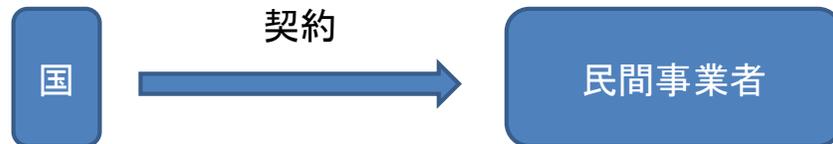
海上の水蒸気観測による集中豪雨予測精度向上のための研究 令和2年度予算案11百万円（令和元年度予算額11百万円）

国土交通省気象庁
気象研究所企画室
029-853-8552

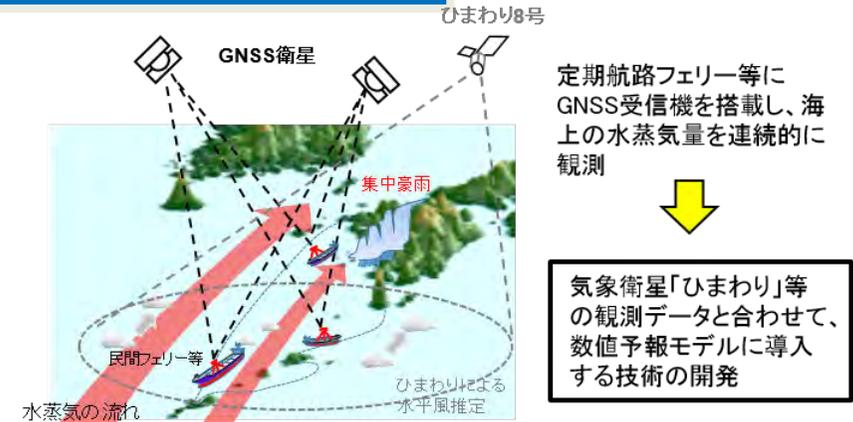
事業概要・目的

- 平成29年7月九州北部豪雨や平成30年7月豪雨などをはじめとする集中豪雨は、気流の上流側から供給される多量の水蒸気に起因して発生し、線状降水帯を伴うこともあり、毎年のように人的被害をもたらしています。このような状況において、海上における水蒸気データの不足により正確な予測ができないケースも多いことが課題となっています。
- 定期航路フェリー等にGNSS受信機を搭載し、海上の水蒸気量を連続的に観測するとともに、観測データを数値予報モデルに導入する技術を開発します。
- さらに、気象衛星「ひまわり」をはじめとする諸々の観測データ等と組み合わせて活用する技術を開発することにより、線状降水帯を含む集中豪雨の予測精度向上を図ります。

資金の流れ

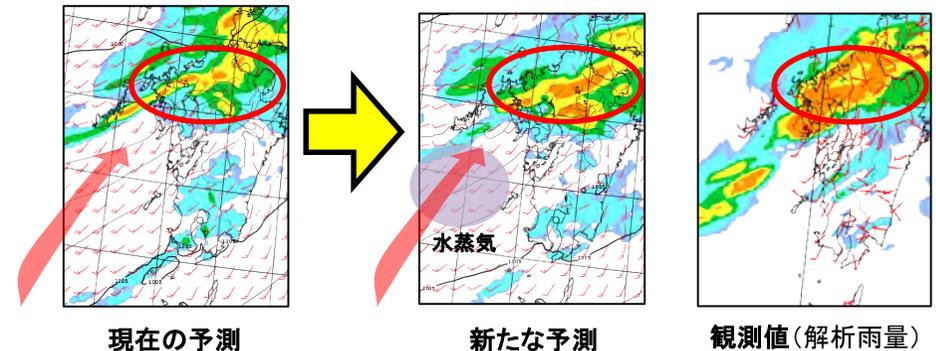


事業イメージ・具体例



期待される効果

- GNSS衛星を活用し、集中豪雨の要因となる海上の水蒸気データを観測することで、集中豪雨の予測精度向上が期待されます。
- これにより、自治体による適時の避難指示等、よりの確かな防災対応を通じ、災害の防止・軽減が図られます。



ICTを活用した歩行者移動支援の普及促進に向けた取組の推進

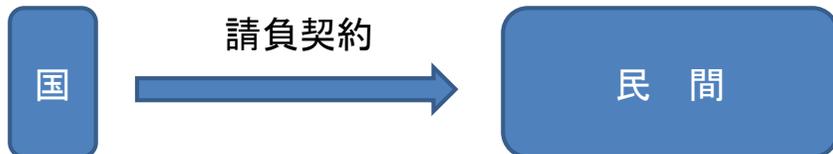
事業期間（平成27年～）／総事業費420百万円
令和2年度予算案47百万円（令和元年度予算額82百万円）

国土交通省
政策統括官付・
国土政策局国土情報課
03-5253-8353

事業概要・目的

- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を控え、訪日外国人旅行者や高齢者、障害者等も含め誰もが屋内外をストレス無く自由に活動できるユニバーサル社会を構築するため、ICTを活用した歩行者移動支援サービスの普及促進を図ります。
- そのため、高精度測位技術を活用した多様なサービスが民間事業者により創出されることを目指し、民間事業者主体による空間情報インフラの整備や屋内外シームレスなナビゲーション等の実証を行います。
- また、民間事業者等が多様な歩行者移動支援サービスを提供できる環境を整備するため、施設や経路のバリアフリー情報等の、移動に必要なデータのオープンデータ化を進めます。特に、競技会場周辺エリア等におけるデータ整備を推進します。併せて、これまで整備されたデータを継続的に活用していくために必要な検討や、データの信頼性を高めるために必要な手法の検討に取り組みます。

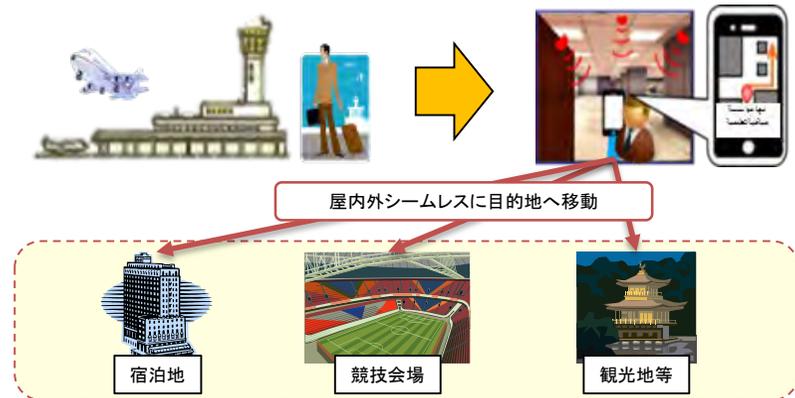
資金の流れ



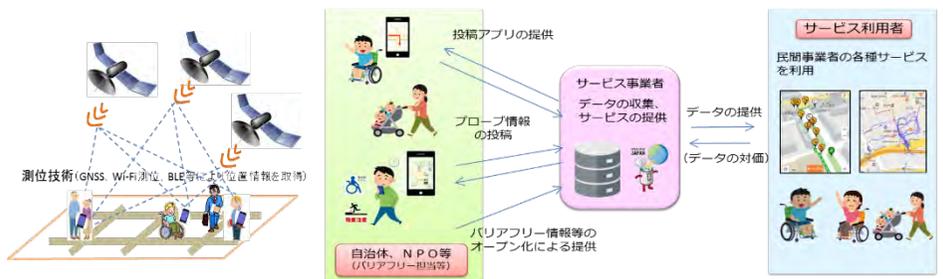
事業イメージ・具体例

誰もがストレス無く自由に活動できるユニバーサル社会を構築

■屋内外シームレス誘導等のサービスの見える化実証



■バリアフリー情報等のデータ収集



期待される効果

- 実証実験及びオープンデータ化により、民間投資を促進し、歩行者移動支援サービスの提供が進む。

地理空間情報の流通・利用促進の検討

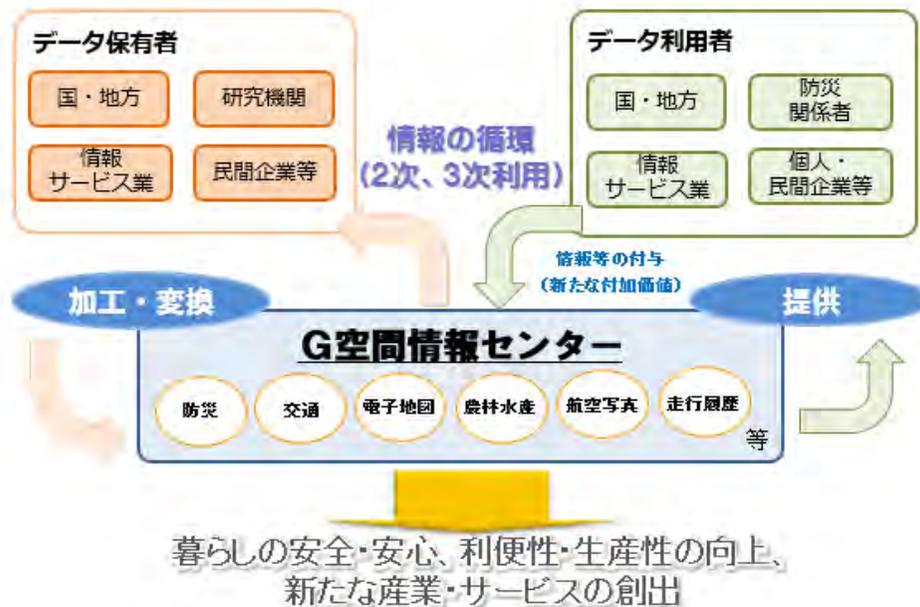
事業期間（平成28年～）／総事業費276百万円
令和2年度予算案84百万円（令和元年度予算額22百万円）

国土交通省
国土政策局国土情報課
03-5253-8353

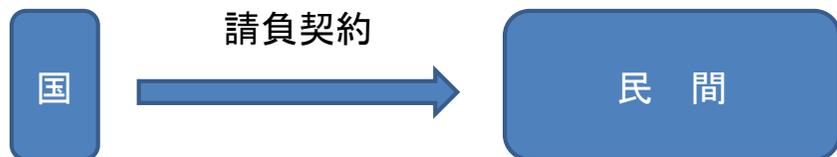
事業概要・目的

- 平成28年11月に稼働が開始されたG空間情報センターは、産学官民の各主体が整備する地理空間情報を集約し、より一層利用価値の高い情報へと加工・変換して、誰もがいつでも容易に、かつ円滑に検索・入手できることを目指すものです。
- 同センターを中核として、地理空間情報の流通や利活用を促進することにより、防災対策やまちづくり等の社会課題の解決、生産性の向上に繋がる課題の分析や解決方策の提示、ひいては新産業・新サービス創出の実現を目指します。
- 地理空間情報の高度な活用による社会実装に向け、データの品質評価等の信頼ある流通環境の整備や人流データ等活用促進のための環境整備を進めていきます。

事業イメージ・具体例



資金の流れ



期待される効果

- 各主体が整備する地理空間情報を集約し、より一層利用価値の高い情報へと加工・変換して、誰もがいつでも容易に、かつ円滑に検索・入手可能となり、データの円滑な利活用の推進が期待されます。